

講師依頼について

研修対象機関

大学
教育委員会
教育センター
小・中学校
高等学校
PTA など

研修対象者

児童・生徒・学生
教員
教育行政関係者
保護者 など

お問合せ

教授法創造研究所
代表 椿原正和
tsubakihara.masakazu@toss2.com
〒860-0004
熊本市中央区新町4丁目1-13-301
<https://www.coutsubakihara.com/>



研修テーマ例

- 全国学力・学習状況調査国語記述問題に対応するための5%の授業改善
- 子どもの自尊感情を高める基礎的読解力を伸ばす指導法
- 物語文を構造的に読みとる「図読法」
- 学力向上に向けた授業のあり方や教師の授業力向上のあり方
- 大学共通テスト国語（実用文）の読解指導（高等学校）
- 探究的な学び方を実現する授業づくり
- 情報活用能力を育成する授業

くうラボ（にこにこ先生の教授法創造研究所）

くうラボ

だれひとり、とりのこさない

にこにこ先生の 教授法創造研究所

全国学テ、ICT教育、校内研修などの
これからを解決する『オンライン研究室』



共に学べる教育実践

- ① にこにこ先生の全国行脚教育情報
- ② マンスリーセミナーへの参加
- ③ 先進的教育実践に取り組む若手実践家のセミナーへの参加
- ④ おすすめ教育関連書籍紹介
- ⑤ くうラボ主催セミナーへの優待参加
など、次々に新しい企画が誕生しています。

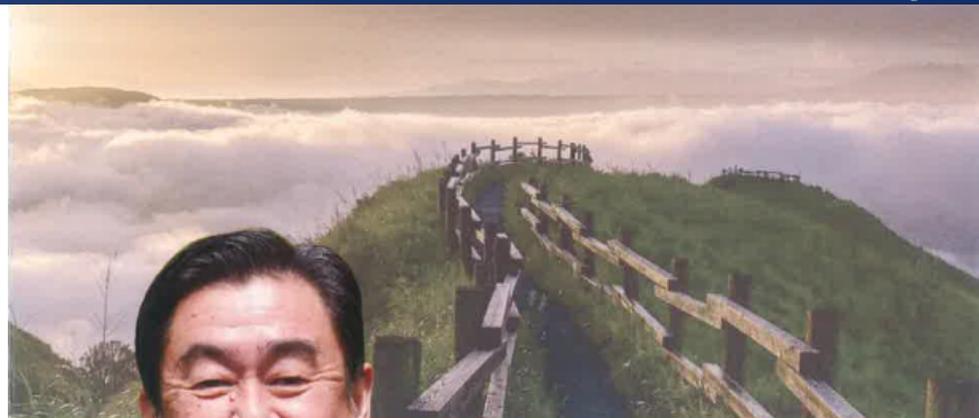


新書1冊程度の価格『1500円/月』
5分でできる国語教材研究動画が100本以上

全国学力・学習状況調査（国語）記述問題 / オンライン授業の指導法
情報読解能力の育成 / 構造的読解指導 / 若手教師の授業力向上 / PTA 研修会



教授法創造研究所



座談会 子どもの読解力



向山 行雄

敬愛大学国際学部教授・教職センター長
(元全国徳小中学校校長会会長)

「読解力」をいかに伸ばすか、これは教育者にとって最も重要な課題の一つである。読解力は、言語理解の基礎であり、学習の土壌となる。読解力を伸ばすには、読者の立場に立って文章を読み解くことが大切である。また、読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。

読者の立場に立って文章を読み解くことが大切である。また、読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。

植原氏 記述式の指導で「3作業」考案

記述式の指導で「3作業」考案。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。

谷氏 PCの効果的な使い方を探ろう



谷 和樹

玉川大学教職大学院教授
たに、かき書 員田県内の小学校教員
として22年勤務。その間、員田県教育
大学修士課程学校教育研究科修了。現在は
玉川大学教職大学院で多くの教員、教職
志望学生に教育実践を教えている。主な
担当科目は「授業技術の研究と実践」
。「教材開発と授業実践」等。著書多数。

PCの効果的な使い方を探ろう。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。

向山氏 学校図書館の充実図って

読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。

低下問題を考える



植原 正和

熊本県相良村立相良南小学校教務主任
つばきほら、まさかず 熊本大学大
学教育学部教育学科教授職修了。全国
学習支援施設協議会の指導員を歴任し、全
国で校長、教職委員会等主体的な課外
活動の。3月で早期退職し、4月からN
PO法人を設立し教育活動に専念する。
現在100を超える講師活動を営む。

低下問題を考える。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。



「読解力」の採入方を示した後、その向上を図る上で手立てや現在の課題などに関する議論が熱なかった。(右側は演説後)

植原氏 勉強でICT抜く経験必要

勉強でICT抜く経験必要。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。

植原氏 「情報の探し出し」が重要に 谷氏 国語以外で教えなかつた



堀田 隆也

東北大学大学院情報科学研究科教授
ほりた、たかつ 福島県公立小学校
教諭、複数の大学の准教授、玉川大学
教職大学院大学院を卒業し、2014年
成立) 年から現職。教科の領域、有
資格等多数取得。専門は教育工学、情報
教育、メディア教育、ICT活用授業、
教師の情動等。

情報の探し出しが重要に。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。

国語以外で教えなかつた。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。読者の感情や考えに寄り添い、文章の奥行きを理解させることが必要である。



時代の変化に対応する「主体性」

教授法創造研究所は、たゆまぬ改善と安定した指導体制を構築し、国内の教育に貢献してきました。児童生徒や教員の皆様が、主体的に学習に取り組んだり、指導をしたりする環境づくりを手助けし、その中で新たな価値を創造することを目標にしています。



予測不可能な社会と言われる Society5.0 へと進む現在、児童生徒を取り巻く状況は昭和・平成時代と比較しても、急速に変化する時代へと進行しています。この変化へ対応していく鍵となるのが、個々の主体性です。

私たちは、主体性を大切にされた基礎的読解力指導法などを開発し、国内外の教育が更に発展するよう、日々研究しています。より良い教育を児童生徒に提供したいという高い志を持った方と共に働けることを心待ちにしています。

代表 椿原正和 (Masakazu Tsubakihara)

代表 プロフィール

1962年、熊本県生まれ。

熊本の公立学校教員として教壇に立つ。

教員をしながら国語実践を中心に全国で講演活動や飛び込み授業を実施。

58歳でNPOを設立と同時に早期退職。

退職と同時に、新型コロナウイルス拡大により緊急事態宣言が発出。

全ての講演活動などがキャンセルとなったが、全国でもいち早く300名の小学生児童を対象にオンライン授業を展開。

「にこにこ先生」と呼ばれ、子どもたちや家庭を対象にオンラインを通して授業や講演を実施している。

【アドバイザー】

- 宮城県白石市 (2020～)
- 熊本県球磨郡相良村 (2024～)
- 広島県広島市伴小学校 (2025～)
- 愛媛県宇和島市立高光小学校 (2025～)

【指導法開発】

- 4つの作業による「全国学力・学習状況調査記述問題指導法」
- 物語文の構造的な読解指導法である「図読法」(商標登録)
- 情報社会で必須の説明文の読解指導法である「読解スキル7」

【著書】

- 『椿原流使いで早わかり国語授業1』
- 『国語教科書の読解力は「図読法」でつける』
- 『ドキュメント！オンライン国語授業：見方・考え方・つくり方』(学芸みらい社) 他多数

【教材開発】

作業でらくらく答え方スキル (正進社)

指導法1：全国学力・学習状況調査 記述問題 指導法

本指導法は、児童生徒に右の「4つの作業」を基本とした全国学力・学習状況調査などの国語科記述式問題を解くための考え方を教える指導法です。

小学校学習指導要領(国,5.6「情報」)に紹介されている「丸で囲む」「線でむすぶ」を使って記述式問題を解きます。

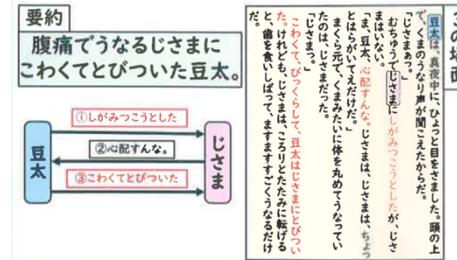
- ◆4つの作業
- 作業① 丸でかこむ
- 作業② 線でむすぶ
- 作業③ エアライン
- 作業④ +α (題名・重要語句)

指導法2：物語文が知的に楽しくなる『図読法』

図読法は、物語文の登場人物の行動や感情を図示することにより、場面描写やクライマックス・主題などの読み取りを行う指導法です。

国語に苦手意識を持っていたり、発達障害を持つ児童生徒にも有効であることが実践ベースで確認されています。

小学校での物語文指導だけでなく、中学校・高等学校での国語指導、特別支援学級での学習でも実践が広がっています。



図読法をはじめとした国語科に関する様々な指導法の確立により、子どもも教師も分かる国語科の授業を提案し、全国に発信し続けています。

堀田龍也氏からのメッセージ



東京学芸大学教職大学院教授/学長特別補佐。東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所教育方法論講座・教授。

【構造を読み取る指導】

文レベルの分析的な読みの指導だけでなく、文章を構造で読む書き指導が、これから一層重要となります。多くの不確かな情報が降り注ぐネット社会において、必要な情報の取り出しは生命線です。構造の読み取りは、プログラミング的思考にもつながります。

椿原先生の指導法が、我が国の国語教育の、そして情報教育の国家的な課題を乗り越えようとするものだと注目しています。

【説明文の読解スキル】

私たちがもっとも多く目にする文章は説明文です。雑誌などで見かける何かの解説文も、Webサイトの記事も、原則として説明文なのです。そこには必ず問題設定と結論があり、対応しており、それが活かされるための構成の特徴があります。

図表や写真が適宜入っており、本文との対応を読み取る必要があります。説明文が読解できなければ、必要な情報は入って来ないため、情報不足と誤解や誤謬を生じさせることとなります。

子供たちが触れることになるさまざまな説明文の読解スキルの指導は、今日もっとも求められる基礎的な能力の指導なのです。椿原先生の指導は、この読解スキルを正面から捉えた明快な指導法だと言えます。



「基礎的読解力」指導法とは

難関とされる全国学国語条件付き記述問題を「3つの作業」によって全員の答えをほぼ同じにすることができると指導法である。3つの作業「①丸で囲む②線で結ぶ(エアライン)③+α(・題名・条件)」を行うことで、どの子も国語記述式問題が解けるようになる。そしてこの指導法は、PISA型読解力を測る問題にも対応することができる。

子どもにとっての「3つのストレス」
1 ページを何回もめくって読むストレス
→指をページの間にはさみ、往復しやすくする。
2 初出の文章だというストレス
→リード文の「(かぞ)で説明された言葉と大字になった言葉をお互い確認する。
3 情報量が多い(資料数、文章の長さ)というストレス
→強調された言葉を丸で囲み、線で結ぶと、答えがどの範囲に限定される。



PISA ①情報を探し出す ②情報を選択する ③問題を解く

①情報を探し出す 取り出す A. 読む、見る! B. 段落に分けて取り出す

②理解する 選び出す C. 資料名を丸で囲む D. 線で結ぶ

③評価し、熟考する 評価、熟考、矛盾への対処 G. 字数制限は考えない

3つの作業(エアライン) ①丸で囲む ②線で結ぶ ③+α(・題名・条件)

問題全体の構造 ①リード文 ②本文 ③問題文

エアライン 線で結ぶ

条件の構造 ①答えを丸で囲む ②文をまとめる ③答えをもう一度まとめる

条件の構造 ①答えを丸で囲む ②文をまとめる ③答えをもう一度まとめる

エアライン 線で結ぶ

条件の構造 ①答えを丸で囲む ②文をまとめる ③答えをもう一度まとめる

条件の構造 ①答えを丸で囲む ②文をまとめる ③答えをもう一度まとめる

権原正和 「図読法」

STEP1 場面分け STEP2 図の作成と再話 STEP3 場面ごとの要約 STEP4 構造の検討

ステップ4 「図読法」

STEP1 場面分け STEP2 図の作成と再話 STEP3 場面ごとの要約 STEP4 構造の検討

STEP2 図の作成と再話

STEP4 構造の検討

STEP1 場面分け ①場面(出来事・事件)分けをする

STEP2 図の作成と再話 ②場面ごとに登場人物の「言動」をシンプルに「図」にする

STEP3 場面ごとの要約 ③場面ごとに25字以内で要約する

STEP4 構造の検討 ④起承転結、モチーフ(中心題材、主題)を検討する

STEP3 場面ごとの要約 ④場面ごとに25字以内で要約する

STEP4 構造の検討 ⑤全体図読一覧を提示する

STEP5 全体の図読一覧を提示する

講師依頼等連絡先 (権原正和メール) tsubaki@hara.masakazu@toss2.com



読解スキル7

- スキル1 題名
- スキル2 文章構成
- スキル3 トピックセンテンス
- スキル4 図表グラフ
- スキル5 説明の型
- スキル6 筆者の主張
- スキル7 要点・要約・要旨

スキル1 題名

説明文の題名は3種類

説明文の題名は、次の3つに分類できます。

- ①話題 ②筆者の主張 ③問いかけ

題名の種類がわかることで、文章の内容を予想しながら読むことができます。また、「学習のねらい」をもって学習していくことができます。

例えば、「思いやりのデザイン」(光村 4年)は「②筆者の主張」型の題名です。この題名から「どんなデザインなのか」「筆者は何を伝えたいのか」という「ねらい」をもって学習を進めることができます。

STEP2 文章構成

主題に着目して段落のまとまりをつかむ
何について説明されているかは、主題をみていくことで分かります。

文章構成①問いと答えの対応
「問いの文」と「答えの文」を見つければ「問い」と「主張」をつかむことができます。また、対応しているかを考えることで文章の整合性を考えることができます。

文章構成②初め・中・終わり
説明文は、まとめの位置によって「頭括弧型」「尾括弧型」「両括弧型」に分かれます。この型を見抜くことで、筆者の主張がどこにあるのかがり、内容の中心が捉えやすくなります。

スキル5 説明の型

説明の型「初め・中・終わり」

説明文教材は、文章全体が大きな3つのまとまりに分かれます。これらのまとまりを「初め・中・終わり」といいます。そして、筆者の主張の位置によって、説明文は3つの型に分けることができます。

頭括弧型…筆者の主張が「初め」にある文章
尾括弧型…筆者の主張が「終わり」にある文章
両括弧型…筆者の主張が「初め」と「終わり」の両方にある文章

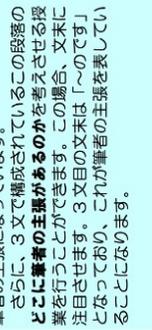
例えば、「思いやりのデザイン」では、「初め」と「終わり」に筆者の主張があるので「両括弧型」となります。



スキル6 筆者の主張

説明の型で筆者の主張をつかむ
説明の型を見抜くことで、筆者の主張がある位置が分かり、内容の中心が捉えやすくなります。また、筆者の主張が書かれている段落には、接続語「このように」が使われることがよくあります。

例えば、「こまを養しむ」(光村 3年)では、最後の段落が「このように」で始まり、筆者の主張になっています。さらに、3文で構成されているこの段落のどこに筆者の主張があるのかを答えさせる授業を行うことができます。この場合、文末に注目させます。3文の文末は「～のです」となっており、これが筆者の主張を表していることとなります。



スキル3 トピックセンテンス

トピックセンテンスを読めば 大体的内容がつかめる

「トピックセンテンス」とは、「各段落で何を言おうとするのかを一口で述べた文」のことです。「各段落の最初に書くのがたいてい文」(木下重雄著『理系系の作文技術』)とされています。

各段落の最初の文だけを読んでいくと、文章全体の内容、流れをつかむことができます。各段落のトピックセンテンスだけを理解していくことで、短時間で内容の全体を理解することができます。

スキル4 図表グラフ

図表・グラフと文章をむすんで 内容を明確にする

図表・グラフは、文章の理解を現物的に促してくれます。文章と図表・グラフを結びつけて読むことで、より正確に内容を理解できます。学習活動として次の2つが考えられます。

- ①図表・グラフと説明している段落を線で結ぶことで、関係をつかむことができます。
- ②図表・グラフに見出しをつけることで、キーワードで明確にすることができます。

スキル7 要点・要約・要旨

言葉の定義です。
■要点…文書・談話、情報などの大事なこと。
■要約…文書や話の全体または部分を短くまとめること、まとめたもの。
■要旨…説明文などの中心となる大事な内容。

要約文の作り方

「くり返し出てくる言葉」「まとまりの中心になる文」「全体のまとめ」「問いに対する答えの部分」を、意味段落ごとに一文でまとめていきます。「思いやりのデザイン」を180字程度で要約すると、次のようになります。
①Aの部から考えることができます。②Aの部から考えると、この部は特定の人の役に立ちますが、目的がはっきりしている点については、そうではありません。③Bの部は、目的がはっきりしている点には十分ではありません。④Cの部は、特定の部の人には十分ではありません。⑤Dの部は、特定の部の人には十分ではありません。思いやりのデザインなのです。



全国公的研修会一覧

令和の日本型学校教育の授業づくり

個別最適化な学び

- ①指導の個別化(AIとD層対応)
- ②学習の個性化

★学び方の定着

協働的な学び

- ①話し合い→聞き合い
- ②オーセンティックな課題

★協働したくなる発問

情報活用能力の抜本的向上

個別最適化な一斉授業

- ①確認 ②形成的評価 ③見取り ④統率 ⑤激励

デジタル(文房具) スキルのトレーニング

令和の学級経営(規律)、個別最適・協働的な学びの共有



読解スキル

権原正和の問題提起 最新著作 絶賛発売中!



権原正和のHP アクセス